

一般 子どもの目の健康について

織部 ひとみ（みどり21）



コロナ禍においてGIGAスクール構想が加速され、菊川市でも令和元年度よりICT教育が推進されている。児童生徒一人一台端末の環境下で懸念されることは、子どもたちの心身の健康面についてである。特にICT化における子どもの目の健康管理が重要と思われる。市として児童生徒の目の健康管理の取り組みを伺う。

【Q】文部科学省が児童生徒の近視の実態調査を令和3年度から3年間継続して行っているが、市の現状把握の調査結果は。

【A】令和5年度視力1.0未満の割合は小学校23・8%、中学校52・6%で、就学時健診の際には眼科の専門医が健康状況を触診し確認、また毎年養護教諭が視力検査を実施、視力1.0未満の場合は受診を促している。

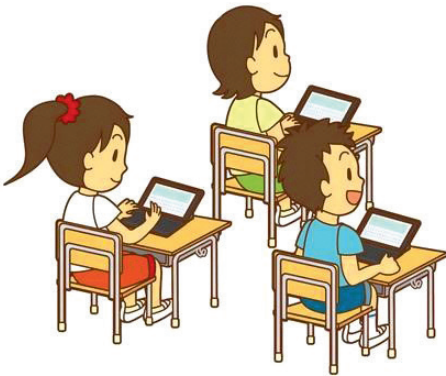
【Q】児童生徒に対して行う目の健康管理と予防対策の取り組みは。

【A】4月当初、学級活動の時間にタブレット使用の約束を配付し、

画面から40〜50センチ離し、20分使用したら画面から目を離し遠くを見るなど指導した。

【Q】各家庭でのスマホ、パソコン、ゲーム機の使用に対する児童生徒への指導や保護者への啓発は。

【A】児童生徒には道徳や学級活動の時間にゲームなどのメディアとの付き合い方や家庭での使用方法を指導、保護者には家庭におけるルールを考えてもらい、ゲーム機等の適切な利用方法について啓発を進めている。



一般 し尿中間槽整備計画の件

織部 光男（無所属）



加茂地区の小川端自治会に、し尿中間槽の迷惑施設が昭和47年に造られました。51年間、土壌汚染の不安、大型タンクローリーが1日7往復、バキュームカーが数十回も行き来する、悪臭と、我慢の限界にきています。施設隣地にお住まいの方から1月27日金曜、市長宛てに文書で要望書提出。面談要求するが5月15日現在、回答がない。

【Q】なぜ市民の要望、意見、質問に真摯に答えないのかを問う。

【A】今後、ご本人と担当者との話し合いの場を持つよう指示しております。

【Q】菊川浄化センターへの受け入れ等は検討をしたのですか。

【A】菊川浄化センターの受け入れについて具体的な検討は行っておりません。

【Q】この問題は、小川端の隣接する人たちの犠牲の上に成り立っているということです。行政として、

施政方針演説にある安心した暮らし、不安のない、そのような暮らしをする為に他に移し、その跡地には公園を造って下さい。小川端には、川の東側には公園はありません。50年間、ありがとうございます。ありがとうございましたという市からの感謝の気持ちを込めて、私は公園一つぐらい造るべきだと思います。いかがですか？

【A】公園に関しましては、特にその計画というのはありません。

他に「下水道総括評価の件」について質問しました。

